

真校だより第126号 令和7年9月号

【回覧】

ふきのとう

令和7年度 後期生徒会立会演説会・選挙～新体制スタート！～



【令和7年度後期生徒会役員】

会長	沓澤美桜	/ 副会長	川又 蓮
議長	阿部幸翔	/ 副議長	栗田祐成
事務局長	植木健吾	/ 応援団長	山田翔太
書記	中川和輝	日食璃愛	
マムカップ実行委員長	佐藤愛里		
真校祭実行委員長	沓澤美桜		

9月17日（水）の5・6校時に生徒会役員選挙立会演説会と選挙が実施され、令和7年度後期新生徒会執行部の体制が決定しました。そして、9月19日（金）の放課後には、3年生を中心とする前期執行部と1・2年生を中心とする後期執行部の間で業務の引継ぎがなされ、新生徒会執行部にバトンが渡されました。前期生徒会長の富樫凜さんからは、一緒に励まし合い支え合ってきた生徒会の仲間たちへの感謝の気持ちと後輩たちへの激励の言葉が語られました。これを受け、後期生徒会長の沓澤美桜さんからは、今後も一層地域に根差した活動を展開し、真室川校の良さを地域の枠を超えて発信していくという決意が表明されました。

前期生徒会執行部のみなさん、これまで本当に疲れ様でした。君たちが生徒会活動を通して、慣れない仕事にも粘り強く誠実に取り組んでくれたことに心から感謝します。初めはハラハラさせられることもありましたが、様々な経験を積むことで、随分頼もしく成長してくれました。後期生徒会執行部のみなさんにも、様々な経験を積み重ねながら、諸先輩の伝統を引き継ぎつつ、新たな風を吹かせてくれることを期待しています。

3学年就職激励会～真室川校キャリア教育で積み上げた力を発揮しよう！～

9月12日（金）に、3年生の就職激励会が開催されました。今年度は3年生全員が卒業後に就職することを希望しており、早い生徒は9月16日（火）から就職試験に臨むことが決まっています。激励会では、副校長（職員代表）、級友、学年主任（兼担任）からそれぞれ激励の言葉が送られ、就職に向かう生徒たちからも決意表明がなされました。3年生諸君は、真室川校入学以来、様々なキャリア学習を通して自己の適性や地域の企業の特徴などについて理解を深めてきました。また、生徒会活動等に主体的に参画しながら、物事を冷静に考え、先の見通しを立てたうえで仕事に取り組むことの重要性も理解できるようになりました。自分が着実に成長を遂げていることを自信に変えて就職活動に臨んで欲しいと思います。就職も進学も縁あってのことですので、臨むような結果ができるとは限りません。しかし、保護者の方々はもちろん、3学年担任団をはじめとする全職員、全生徒が常にみなさんを応援しています。内定を頂くことができるまで、粘り強く、強い心をもって就職戦線を乗り切っていきましょう。頑張れ頑張れ、真室川校！頑張れ頑張れ、3年生諸君！

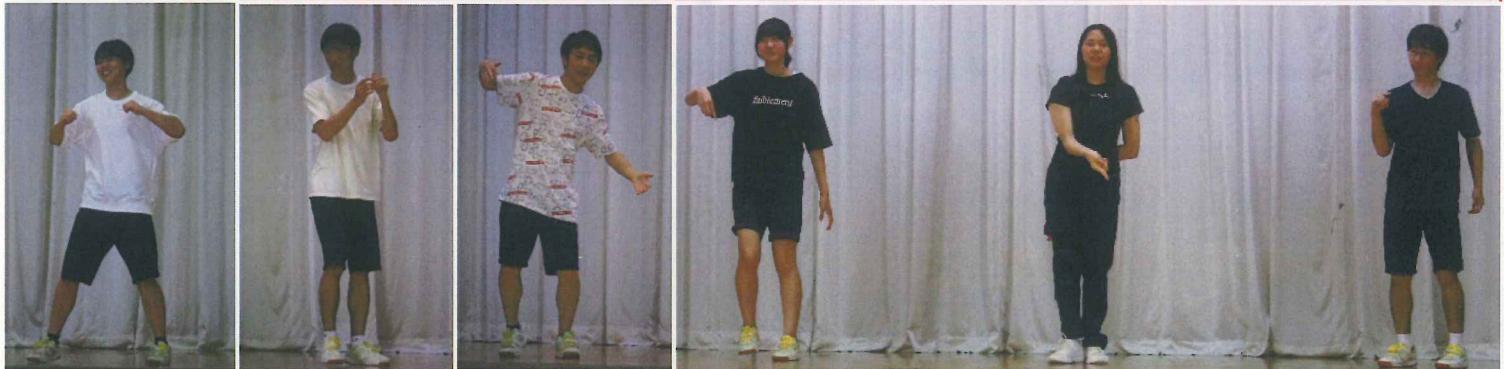


釜渕保育所を訪問し、子どもたちと交流しました！～3年「保育基礎」～

9月9日（火）に3年生が「保育基礎」の授業の一環で、釜渕保育所を訪問させていただきました。最初は園児も真校生も緊張した面持ちでしたが、保育所さんが準備してくださったいくつかのゲームを通して交流を深めると、次第にお互いに心を開いて接することができるようになりました。園児たちが遠慮することなく思いっきり体当たりして遊んでくれたお陰で、真校生も負けずに思いっきり楽しみながら交流することができました。すっかり打ち解けたところで、最後に園庭に出て野鳥のコゲラをみんなで観察しました。釜渕保育所の園児たちが、豊かな自然の中で毎日すくすくと成長していることを知ることができました。3年生が事前に授業で準備した折り紙のプレゼントにも大喜びしてくれましたし、普段の授業では経験できない大切なものを得られた訪問でした。



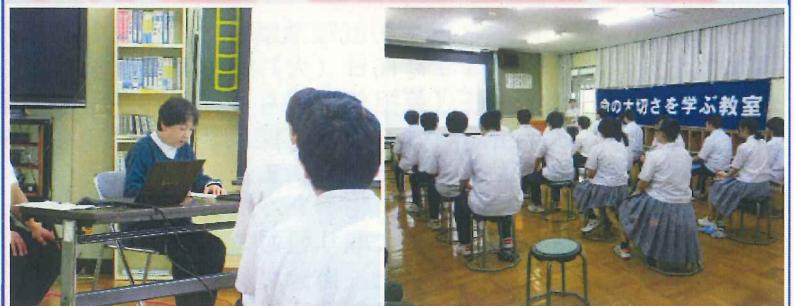
ダンス発表会！～体育の授業で練習した成果を発表しました～



9月12日（金）の3・4校時にダンス発表会が開催されました。各学年とも2組のチームに分かれ、計6チームが体育の授業で練習した成果を披露しました。各チームともメンバーの個性を引き立てる選曲・振付け・服装等で、独自色を打ち出していました。特に上級生のダンスは、昨年よりも格段にレベルアップしていると感じました。なお、地域きずな授業として9名の方々にも鑑賞して頂き、楽しんで頂きました。



いのちの教室～「犯罪被害者遺族の講話」～



9月5日（金）の5・6校時に「いのちの大切さ」について考える時間として、犯罪被害に遭い息子さんを亡くされた横山礼子様を講師にお迎えし、お話を伺いました。お話しされる方も聞く方も、心が苦しくなるような内容でしたが、生徒たちは神妙な面持ちで真剣にお話を受け止めていました。犯罪被害で家族を失った方々の苦しみや少年犯罪、そして命の尊さについて学ぶ貴重な機会になりました。